

ゴーヘッドス 速報

Goaheads

第20号 平成25年7月21日

攻めに攻めた内角球！！

泉の適時打がゲームを決めた！！

	1	2	3	4	5	6	7	R
G	0	0	0	4	0	0	0	4
R	1	1	0	1	0	0	0	3



7/21 (日) Victoria予選リーグRetunurs戦を、等々力球場にて行なった。前節非常に悔しい敗戦を喫しただけに、2節連続同じゲーム内容はしたくない、そんなチームの思いで、今日のゲームに望んだ。また、今日敗戦すると、リーグの今後の戦いも希望が無くなるだけに、是が非でもチーム一丸勝利を目指したいところである。今日は先行、哲也が打席に入り、プレイボールとなった。しかし、相手先発の落ち着いた投球に3回までラッキーな安打1本に抑えられる、その相手チームであるが、初回四球で出塁した走者を盗塁と内野ゴロで三塁に進め、4番がきっちりセンターに弾き返し1点を先制、2回には一死後死球で出した走者をPBと失策でこれまた三塁に進め、ここでもきっちり適時打を放たれ2点目を失った。しかし、我がチームにもビッグチャンスが訪れる。4回先頭の智が死球により出塁、その後盗塁を決める、続く光希も4球目を力まず、レフト前に運び、その後これまた盗塁を決め、場面を無死二・三塁と前節失点に終えた同様な場面へととなった。打席に入ったのは4番祐太郎、カウント1-1から右打ちを見せたが空振り、その後ボールを選択、1球ファールで粘った6球目をこれが、内野ゴロのお手本とはからの打球を打ち、三塁より智が率先よくホームインし、1点を挙げる。そして今日5番に入った暢造が投内安を記録し、この間に三塁走者がホームインし、同点とした。ベンチのムードはいけいけの状態、この場面に今期そこそこの打率を残している浅沼が相手失策により出塁、続く深沢が止めたバットに打球をあて、非常に中途半端なバッティングになったが、結果これが送りバント同様に、二死二・三塁とした。ここで打席に入ったのが、手首を痛めている泉、自身が強振が難しいと言っていたが、何と5球を粘った6球目をコンパクトに振りぬき、二走者を返す適時打で逆転に成功した。その後も得点シーンは続いたが、前節同様走塁の拙さで更なる得点は出来なかった。その裏に、今日3個目の死球で走者を出塁させ、結果1つの失策が絡み1点を失点し、その差は最少得点差の1点でゲームは進行していった。その後は光希・富士ともに好投を見せ、このまま最終回に入り、僅差の勝利を手中に収めた。

今日のゲームを振り返ってみると、やはり4回の攻撃が勝利の大きな要因で有るが、その内容が非常に良い。その回4安打と打線も繋がったが、往々にして有り勝ちな打ち上げが1回も無かったことである。バットに当て、転がすだけで点が入る、という非常にお手本な攻撃であった。また、バッテリーに関しても、非常に良い配球であったと感じる、その結果が死球3個ではないだろうか？出し入れをやるうとした結果の産物が死球3個であるが、恐れず内角を攻め続けたバッテリーの配球は非常に賞賛出来る、この結果が出し入れを有効にさせ、被安打3の結果を得たのであろう。ただ、そうは言っても若干の懸念は有る。投手の球数の多さ、これは、暑い夏には体力を消耗するので、もう少し減らす努力は必要、守備においては、2つ裁けるボールを失策、更にはボールとけんかし、捕球の焦りが失策、最後にスランプが無い走塁に関して、打球の行方を走塁中に確認し且つ、自身で走力を弱めた事は、アウトカウントを考えると、絶対にやってはいけないプレー、投手が崩れなかった事により、僅差で勝利出来たが、やはり得点出来る時は貪欲に狙いたいと思う、

ただ、そうは言っても、そのミスチーム一丸でカバー出来たのも勝利に繋がった要因であろう。次節は2度目の対戦となるチームとのトーナメントだが、今度のゲームの入りは四死球でなく、三人で斬り、序盤から得点を狙い、勝利を目指しましょう！

それにしても、乗った時には、何か降りたような感じで、ベンチのムードは最高ですね！